

第3次網走市大空町 定住自立圏共生ビジョン

期 間 令和3年4月～令和8年3月

中心市 網走市

近隣町 大空町

令和3年3月

北海道網走市

目 次

第1章 はじめに

1. 定住自立圏構想の概要	1
2. 定住自立圏域共生ビジョンの目的	1
3. 定住自立圏の名称及び構成市町	2
4. 定住自立圏共生ビジョンの期間	2

第2章 圏域の概況と現状

1. 圏域の概況	2
2. 圏域の現状と課題	1 2

第3章 これまでの取組状況と今後の方向性

1. 生活機能の強化に係る政策分野	1 7
2. 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野	2 2
3. 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野	2 3

第4章 圏域の将来像

第5章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取組

1. 取組の体系	2 6
I 生活機能の強化に係る具体的取組	2 7
II 結びつきやネットワークの強化に係る具体的取組	4 4
III 圏域マネジメント能力の強化に係る具体的取組	4 7

第1章 はじめに

1. 定住自立圏構想の概要

定住自立圏構想とは、住民の生活環境が密接に関係している地域を一つの圏域として捉え、「定住」に必要な都市機能と生活機能を確保するとともに、圏域の地域資源を有効に活用して、「自立」に必要な経済基盤を培い、相互に役割分担し、連携・協力することにより、圏域全体を暮らしやすく自立した地域にしようとするものです。

2. 定住自立圏共生ビジョンの目的

網走市は、平成22年9月2日に中心的な役割を担う意思を表明する「中心市宣言」を行い、宣言に賛同した大空町と、定住自立圏形成に関する取組内容等について協議を行ってきました。

同年、基本的な考え方がまとまったことから、定住自立圏形成協定の締結について両市町議会の議決を経て、平成23年3月23日に網走市と大空町との間で1対1の協定を締結しました。

その後、共生ビジョン懇談会での議論を経て、同年9月21日に『網走市大空町定住自立圏共生ビジョン』を、平成28年4月1日には『第2次網走市大空町定住自立圏共生ビジョン』を策定しました。

現行の共生ビジョンの計画期間が令和2年度までであることから、社会情勢の変化等を踏まえ、魅力あふれる定住自立圏の形成を維持するため、圏域の将来像及びその実現のために必要な具体的な取り組みを示す『第3次網走市大空町定住自立圏共生ビジョン』を策定するものです。

【経過】

○平成22年	9月2日	網走市が中心市宣言
○平成23年	3月23日	網走市と大空町が1対1で協定を締結
○平成23年	9月21日	網走市大空町定住自立圏共生ビジョン策定
○平成24年	3月16日	協定変更（交流人口について追加）
○平成25年	1月21日	共生ビジョンの一部変更（事業費の修正のみ）
○平成26年	2月28日	共生ビジョンの一部変更（事業費の修正のみ）
○平成26年	12月29日	共生ビジョンの一部変更（事業費の修正のみ）
○平成28年	4月1日	第2次網走市大空町定住自立圏共生ビジョン策定
○平成29年	3月1日	共生ビジョンの一部変更（成果指標等追加）
○平成31年	2月19日	共生ビジョンの一部変更（統計数値の更新）
○令和元年	10月23日	共生ビジョンの一部変更（文言の追加及び事業費の修正）
○令和2年	3月31日	共生ビジョンの一部変更（統計数値の更新及び文言の修正）

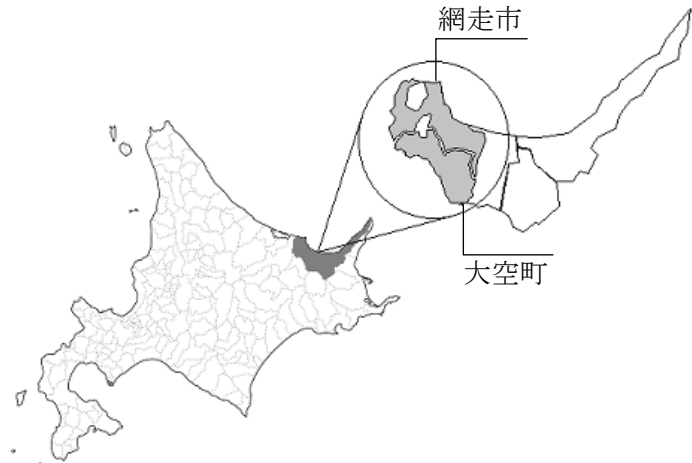
3. 定住自立圏の名称及び構成市町

(1) 定住自立圏の名称

網走市大空町定住自立圏

(2) 構成する市町の名称

網走市（中心市）、大空町



4. 定住自立圏共生ビジョンの期間

本共生ビジョンの期間は、令和3年度から令和7年度までの5年間とし、必要に応じ所要の変更を行います。

第2章 圏域の概況と現状

1. 圏域の概況



本圏域は、北海道オホーツク管内の東部に位置し、網走国定公園の一部を形成する網走湖、能取湖、藻琴湖をはじめ、ラムサール条約登録湿地の濤沸湖など、美しい水辺に囲まれており、広大な大地には、新緑、芝桜、ひまわり、サンゴ草と四季の移り変わりが鮮明で美しい景色が見られるなど、自然豊かな地域です。

本圏域を構成している両市町は、歴史的に深いつながりを有しており、旧女満別村は大正10年に旧網走町から分村、また、旧東藻琴村は、昭和22年の網走市制施行と同時に分村しています。その後、平成18年に女満別町と東藻琴村が合併し、現在の大空町となっています。

このような歴史的結びつきを持つ両市町は、生活排水やし尿の共同処理をはじめ、網走地区消防組合（一部事務組合）や北網圏域地域医療構想調整会議を組織するなど、これまでも広域的な取り組みを行ってきました。

また、本圏域は、通勤・通学、医療・福祉、教育、買い物など、日常的な生活の各分野においても、行政区域を越えた生活圏を形成し、あらゆる面で結びつきが強固な地域です。

【構成市町の概要】

	<p align="center">網走市 ～ 豊かな自然にひと・もの・まちが輝く健康都市 ～</p>
<p>網走市は、北海道の東部オホーツク海に面し、世界自然遺産の知床や阿寒摩周、大雪山の3つの国立公園に囲まれた網走国定公園の中心に位置しており、知床連山を眺望できる名勝「天都山」やラムサール条約登録湿地「濤沸湖」をはじめ大小5つの湖が織りなす水と緑の美しい景観を有するまちです。</p> <p>豊かな海や湖と肥沃な大地からもたらされる農水産物、ここでしか見ることのできない流水や海、湖、山などの自然景観、スポーツに適した清涼な気候と、それらを活かした体験型ツーリズムなど、まちの魅力を活かした取り組みにより、豊かな自然にひと・もの・まちが輝き続け、誰もが健康で安心して暮らすことのできるまちを目指しています。</p>	<p>【特産品】 サケ、カニ、ホタテ、クジラカラフトマス、キンキ、ワカサギ、シジミ、長いも、行者菜西洋わさび、もち麦、南瓜、さくらんぼ、玉ねぎ、ごぼう</p> <p>【名所・見どころ】 オホーツク流氷館、能取岬博物館網走監獄 北海道立北方民族博物館</p> <p>【主な催し】 あばしり七福神まつり あばしりオホーツク夏祭り オホーツク網走マラソン</p>
	<p align="center">大空町 ～ 夢を絆を 笑顔で彩る大空町～</p>
<p>平成18年3月31日、女満別町と東藻琴村が合併して誕生した大空町は、北海道北東部に位置し、南に自然豊かな藻琴山がそびえ、北は水産資源に恵まれた網走湖に面した景観の美しいまちです。</p> <p>肥沃な田園丘陵地帯が広がる中央部では農業が、藻琴山麓の高原では酪農が盛んで、乳製品や肉製品がブランド化されています。</p> <p>また、オホーツクの空の玄関口である女満別空港は世界自然遺産の知床国立公園をはじめ、近隣諸都市へのアクセスの拠点となっています。</p> <p>ヨーロッパを彷彿させる農村景観や質の高い地域資源を活用し、みんながいきいきとした笑顔あふれるまちをめざしています。</p>	<p>【特産品】 長いも、じゃがいも グリーンアスパラガス シジミ、ワカサギ、シラウオ、さくら豚、チーズ</p> <p>【名所・見どころ】 メルヘンの丘 ひがしもこと芝桜公園 ひがしもこと乳酪館</p> <p>【主な催し】 めまんべつ観光夏まつり ひがしもこと芝桜まつり ノンキーランドふるさと祭り</p>

【人口・世帯の推移】

人口の推移では、1995（平成7）年と2015（平成27）年の数値を比較すると、網走市では11%以上、大空町では18%以上減少しています。

また、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の市区町村別将来推計人口（平成30年推計）」によると2040（令和22）年には、両市町の推計人口は3万2千人となることも予想されています。

表 人口の推移

（単位：人）

市町名	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	H7/H27
網走市	44,176 △0.5%	43,395 △1.8%	42,045 △3.1%	40,998 △2.5%	39,077 △4.7%	△5,099 △11.5%
大空町	8,992 △2.7%	8,946 △0.5%	8,392 △6.2%	7,933 △5.5%	7,360 △7.2%	△1,632 △18.1%

注) 下段は対前期増減率
出典：国勢調査

表 世帯数の推移

（単位：世帯）

市町名	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	H7/H27
網走市	17,469 10.3%	18,012 3.1%	17,982 △0.2%	18,112 0.7%	18,035 △0.4%	566 3.2%
大空町	2,902 5.2%	3,088 6.4%	3,014 △2.4%	2,967 △1.6%	2,874 △3.1%	△28 △1.0%

注) 下段は対前期増減率
出典：国勢調査

【年齢別人口の推移】

年齢別人口の推移では、平成7年と平成27年を比較すると、年少人口の構成比は、両市町とも4ポイント以上減少しているのに対し、高齢者人口の構成比は、両市町とも13ポイント以上増加し、少子高齢化が進んでいることが分かります。

生産年齢人口の構成比は、両市町ともに減少傾向にあります。

表 年少人口の推移（0～14歳）

（単位：人）

市町名	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	H7/H27
網走市	7,232 16.4%	6,214 14.3%	5,508 13.1%	5,061 12.3%	4,571 11.7%	△2,661 △4.7ポイント
大空町	1,549 17.2%	1,395 15.6%	1,201 14.3%	1,059 13.3%	926 12.6%	△623 △4.6ポイント

注) 下段は総人口に占める割合
出典：国勢調査

表 生産年齢人口の推移（15～64歳）

（単位：人）

市町名	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	H7/H27
網走市	30,824	29,859	28,119	26,578	23,698	△7,126
	69.8%	68.8%	66.9%	64.8%	60.6%	△9.2 ㊦
大空町	5,687	5,501	4,957	4,554	3,969	△1,718
	63.2%	61.5%	59.1%	57.4%	53.9%	△9.3 ㊦

注) 下段は総人口に占める割合
出典：国勢調査

表 高齢者人口の推移（65歳以上）

（単位：人）

市町名	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	H7/H27
網走市	6,120	7,322	8,418	9,324	10,691	4,571
	13.9%	16.9%	20.0%	22.7%	27.4%	13.5 ㊦
大空町	1,756	2,050	2,234	2,318	2,464	708
	19.5%	22.9%	26.6%	29.2%	33.5%	14.0 ㊦

注) 下段は総人口に占める割合
出典：国勢調査

【産業別就業人口の推移】

産業別就業人口の推移では、両市町とも第三次産業であるサービス業、卸売・小売業、飲食店などの就業者が高い割合を占めていますが、農業が主要産業である大空町は、第一次産業の就業者も全体の約4割と高い割合を占めています。

表 第一次産業就業人口の推移

（単位：人）

市町名	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	H7/H27
網走市	2,439	2,392	2,228	2,136	2,230	△209
	10.9%	11.0%	11.1%	11.4%	12.4%	1.5 ㊦
大空町	1,965	1,832	1,784	1,615	1,524	△441
	39.1%	37.4%	40.4%	40.7%	39.9%	0.8 ㊦

注) 下段は全就業人口に占める割合
出典：国勢調査

表 第二次産業就業人口の推移

（単位：人）

市町名	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	H7/H27
網走市	5,140	4,937	3,800	3,111	2,875	△2,265
	23.0%	22.7%	18.9%	16.6%	16.0%	△7.0 ㊦
大空町	852	813	541	449	427	△425
	17.0%	16.6%	12.3%	11.3%	11.2%	△5.8 ㊦

注) 下段は全就業人口に占める割合
出典：国勢調査

表 第三次産業就業人口の推移

(単位：人)

市町名	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	H7/H27
網走市	14,793	14,446	13,763	12,659	12,170	△2,623
	66.1%	66.3%	68.5%	67.7%	67.8%	1.7 割
大空町	2,207	2,254	2,088	1,908	1,833	△374
	43.9%	46.0%	47.3%	48.0%	47.9%	4.0 割

注) 下段は全就業人口に占める割合
出典：国勢調査

【事業所の推移】

事業所の推移では、平成 8 年と平成 28 年を比較すると、両市町ともに事業所数及び従業者数が減少しています。

雇用の減少は、人口減少の要因の一つとなっています。

表 事業所数の推移

(単位：事業所)

市町名	平成 8 年	平成 13 年	平成 18 年	平成 24 年	平成 28 年	H8/H28
網走市	2,214	2,179	2,214	1,927	1,861	△353
	△3.9%	△2.8%	1.6%	△13.0%	△3.4%	△15.9%
大空町	432	405	362	366	352	△80
	△5.3%	△6.3%	△10.6%	1.1%	△3.8%	△18.5%

注) 下段は対前期増減率
出典：平成 18 年度までは事業所・企業統計調査（平成 24 年度からは経済センサス）

表 従業者数の推移

(単位：人)

市町名	平成 8 年	平成 13 年	平成 18 年	平成 24 年	平成 28 年	H8/H28
網走市	22,126	21,621	19,959	16,474	15,757	△6,369
	3.8%	△2.3%	△7.7%	△17.5%	△4.4%	△28.8%
大空町	3,764	3,556	3,093	3,408	3,295	△469
	9.3%	△5.5%	△13.0%	10.2%	△3.3%	△12.5%

注) 下段は対前期増減率
出典：平成 18 年度までは事業所・企業統計調査（平成 24 年度からは経済センサス）

【工業の推移】

工業の推移では、平成15年と平成30年を比較すると、事業所数・従業員数は両市町ともに減少していますが、製造品出荷額等は、網走市が60%増加しています。

表 事業所数（4人以上の事務所）の推移

(単位：事業所)

市町名	平成15年	平成20年	平成25年	平成30年	H15/H30
網走市	54 △37.9%	67 24.0%	68 1.5%	52 △23.5%	△2 △3.7%
大空町	12 △14.3%	10 △16.7%	5 △50.0%	4 △20%	△8 △66.7%

注) 下段は対前期増減率、平成15年対前期増減率は平成10年調査と比較
出典：工業統計調査

表 従業員数の推移

(単位：人)

市町名	平成15年	平成20年	平成25年	平成30年	H15/H30
網走市	1,618 △29.9%	1,595 △1.4%	1,397 △12.4%	1,522 8.9%	△96 △5.9%
大空町	188 △27.7%	236 25.5%	177 △25.0%	140 △20.9%	△48 △25.5%

注) 下段は対前期増減率、平成15年対前期増減率は平成10年調査と比較
出典：工業統計調査

表 製造品出荷額等の推移

(単位：万円)

市町名	平成15年	平成20年	平成25年	平成30年	H15/H30
網走市	3,301,187 △19.0%	4,446,196 34.7%	4,222,299 △5.0%	5,277,012 25.0%	1,975,825 59.9%
大空町	206,264 △46.7%	249,538 21.0%	166,761 △33.2%	190,514 14.2%	△15,750 △7.6%

注) 下段は対前期増減率、平成15年対前期増減率は平成10年調査と比較
出典：工業統計調査

【商業の推移】

商業の推移では、平成14年と平成28年を比較すると、全体的に減少しています。特に、年間商品販売額は、網走市で32%以上、大空町で13%以上減少しています。

表 商店数（卸、小売業）の推移

(単位：事業所)

市町名	平成14年	平成19年	平成24年	平成26年	平成28年	H14/H28
網走市	541 △2.5%	500 △7.6%	439 △12.2%	439 0%	429 △2.3%	△112 △20.7%
大空町	87 △15.5%	81 △6.9%	76 △6.2%	83 9.2%	83 0%	△4 △4.6%

注) 下段は対前期増減率

出典：平成19年度までは商業統計調査（平成24年度からは経済センサス）

表 従業員数の推移

(単位：人)

市町名	平成14年	平成19年	平成24年	平成26年	平成28年	H14/H28
網走市	3,834 8.6%	3,496 △8.8%	3,319 △5.1%	3,122 △5.9%	3,116 △0.2%	△718 △18.7%
大空町	443 △9.4%	414 △6.5%	381 △8.0%	404 6.0%	430 6.4%	△13 △2.9%

注) 下段は対前期増減率

出典：平成19年度までは商業統計調査（平成24年度からは経済センサス）

表 年間商品販売額の推移

(単位：百万円)

市町名	平成14年	平成19年	平成24年	平成26年	平成28年	H14/H28
網走市	112,559 4.7%	79,141 △29.7%	70,089 △11.4%	72,258 3.1%	76,313 5.6%	△36,246 △32.2%
大空町	15,240 △14.6%	14,798 △2.9%	11,491 △22.3%	18,131 57.8%	13,236 △27.0%	△2,004 △13.1%

注) 下段は対前期増減率

出典：平成19年度までは商業統計調査（平成24年度からは経済センサス）

【農業の推移】

農業の推移では、平成12年と平成27年を比較すると、両市町ともに農家戸数及び農業就業人口が減少しているのに対し、経営耕地総面積は増加傾向にあり、農家の経営規模の拡大化が進んでいることが分かります。

表 農家戸数の推移

(単位：戸)

市町名	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	H12/H27
網走市	451 —	406 △10.0%	357 △12.1%	349 △2.2%	△102 △22.6%
大空町	569 —	523 △8.1%	479 △8.4%	439 △8.4%	△130 △22.8%

注) 下段は対前期増減率
出典：世界農林業センサス・農林業センサス

表 農業就業人口の推移

(単位：人)

市町名	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	H12/H27
網走市	1,363 —	1,235 △9.4%	1,067 △13.6%	1,009 △5.4%	△354 △26.0%
大空町	1,773 —	1,679 △5.3%	1,549 △7.7%	1,391 △10.2%	△382 △21.5%

注) 下段は対前期増減率
出典：世界農林業センサス・農林業センサス

表 経営耕地総面積の推移

(単位：ha)

市町名	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	H12/H27
網走市	11,471 —	11,364 △0.9%	12,638 11.2%	12,651 0.1%	1,180 10.3%
大空町	12,617 —	12,668 0.4%	13,066 3.1%	12,910 △1.2%	293 2.3%

注) 下段は対前期増減率
出典：世界農林業センサス・農林業センサス

表 農業産出額の推移

(単位：億円)

農業産出額	全国	北海道	オホーツク	網走市	大空町	北海道/全国	オホーツク/ 北海道
平成29年度	92,742	12,762	1,893	216	144	13.8%	14.8%
平成30年度	90,558	12,593	1,954	207	141	13.9%	15.5%

出典：平成30年～令和元年北海道農林水産統計年報

【漁業の推移】

海面漁業（オホーツク海、能取湖（※））では、サケ、ホタテをはじめ、スケトウダラ、キンキ、マス、ホッケ、カニなどが、また、内水面漁業（藻琴湖、濤沸湖、網走湖）では、シジミ、ワカサギ、シラウオなどが水揚げされています。

平成31年の海面漁業と内水面漁業の内訳は、漁獲量は海面漁業が98.7%、内水面漁業が1.3%、生産額は海面漁業が94.8%、内水面漁業が5.2%となっています。

※能取湖は平成30年9月1日より海面指定となっている。

表 漁獲量の推移

(単位：t)

市町名	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	H27/H31
網走市	50,098.3 △2.8%	41,075.2 △18.0%	40,544.1 △1.3%	50,338.3 24.2%	59,575.3 18.3%	9,477 18.9%
大空町	241.3 5.5%	229.8 △4.8%	188.3 △18.1%	187.6 △0.4%	157.4 △16.1%	△83.9 △34.8%

注) 下段は対前年増減率
出典：網走市水産漁港課

表 漁業生産額の推移

(単位：千円)

市町名	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	H27/H31
網走市	12,980,402 7.9%	12,294,481 △5.3%	13,440,882 9.3%	13,956,223 3.8%	11,213,756 △19.7%	△1,766,646 △13.6%
大空町	161,833 3.1%	158,077 △2.3%	142,673 △9.7%	141,329 △0.9%	117,865 △16.6%	△43,968 △27.2%

注) 下段は対前年増減率
出典：網走市水産漁港課

【観光の推移】

観光入込客数の推移では、平成27年と平成31年を比較すると、網走市は10%減少しており、大空町では29%の増加となっています。

宿泊客延数の推移では、網走市は微減していますが、大空町では増加傾向にあります。平成27年と平成31年を比較すると、大空町では27%増加しています。

女満別空港の利用者数の推移では、微増傾向にあり、平成27年と平成31年を比較すると、5.9%、4万5千人余りの利用者の増加が見られます。

表 観光入込客数の推移

(単位：千人)

市町名	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	H27/H31
網走市	1,532.4 8.2%	1,530.2 △0.1%	1,624.1 6.1%	1,472.5 △9.3%	1,379.2 △6.3%	△153.2 △10.0%
大空町	959.1 9.9%	935.2 △2.5%	1,171.4 25.3%	1,329.2 13.5%	1,237.7 △6.9%	278.6 29.0%

注) 下段は対前期増減率
出典：北海道オホーツク総合振興局

表 延宿泊客数の推移

(単位：千人泊)

市町名	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	H27/H31
網走市	467.8 4.0%	457.5 △2.2%	481.9 5.3%	443.7 △7.9%	422.7 △4.7%	△45.1 △9.6%
大空町	12.8 △4.5%	10.8 △15.6%	12.9 19.4%	15.3 18.6%	16.2 5.9%	3.4 26.6%

注) 下段は対前期増減率
出典：北海道オホーツク総合振興局

表 女満別空港利用者数の推移

(単位：人)

空港名	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	H27/H31
女満別 空 港	765,171 3.9%	780,653 2.0%	834,427 6.9%	842,868 1.0%	810,545 △3.8%	45,374 5.9%

注) 下段は対前期増減率
出典：北海道オホーツク総合振興局

2. 圏域の現状と課題

【医療の分野】

近年、医療の高度化・専門化が進む中で、発病から治癒に至るまでを一人の医師や、一つの医療機関で対応することが難しくなっています。

また、少子高齢化の進行による人口構造の変化は、医療に対するニーズの規模的・内容的変化に加え、担い手確保をますます困難にしています。こうした社会情勢等の変化に伴う医療体制の動向を踏まえ、圏域に欠かせない医療機能の確保や安定的な体制構築など、必要に応じた対応が求められています。

こうした中、地域医療体制を維持・確保するためには、急性期などの濃厚な治療を必要とする時期、リハビリを含めた回復期、その後の定期的な検査・指導を必要とする時期などで、かかりつけ医、専門病院、地域センター病院による連携が必要です。

救急医療体制の確保においては、斜網地域における市町は、病院群輪番制や休日夜間当番医制の確保のため、協力して支援体制を構築し、必要な支援を実施しています。

現在、斜網地域における北網圏域地域医療構想調整会議において、退院後、在宅に必要な医療と介護サービスを一体的に受けられるための連携体制の構築及び、市町・病院等における連携窓口を設置し、機能強化に努めるとともに、多職種協働による在宅医療の充実に向けた取り組みを進めています。

圏域で安定的に持続可能な救急医療や小児科・産科体制を整えるためには、医療を支える医療従事者の使命感だけに頼ることなく、住民と医療機関、行政が地域医療の知識や適正受診などに関する情報を共有し、緊密な連携を持つことが重要です。

また、公共交通機関や自家用車などの移動手段を持たない郊外地区の住民にとって、病院や診療所で受診する機会を確保する取り組みが必要です。

【広域観光の分野】

近年の観光客の動向は、単に観光施設等を見て回る物見遊山的な団体旅行から、知的好奇心を満たす学習型・体験型の個人旅行へと大きく転換しています。また、LCC（格安航空会社）の台頭などにより、旅行傾向にも変化が生まれてきています。

このような中、海外からの誘客促進にも力を注いできましたが、海外観光客の標準的な旅行日程は4泊以上であることから、一つの自治体だけでの取り組みには限界があり、それぞれの地域の魅力をつなげる周遊コースを設定することにより、圏域のポテンシャルを生かした多様な観光メニューの創出が必要です。

そのためにもオホーツク地域、ひがし北海道地域の市町村の連携が不可欠であり、「女満別空港整備・利用促進協議会」や、「北海道観光振興機構」、「ひがし北海道自然美への道DMO」等の取り組みの中で各自治体が連携を強化して事業展開を図ることが求められています。

【教育の分野】

学校教育の分野では、圏域にある高等学校3校がそれぞれ特色ある教育方針を打ち出しており、相互に通学できる環境と併せて、地域における教育機会の確保という点で密接に結びつき、重要な役割を果たしています。

また、圏域にある図書館3館には合計38万余冊の蔵書があり、それぞれインターネットによる蔵書検索が行え、貸し出しについても両市町の利用者の利便性が図られています。また、新たに導入した電子図書館についても、両市町の住民の利用が可能となっています。

体育施設では、中学校体育連盟などによる大きな体育行事が開催される場合は、圏域の施設を利用して広域的な受け入れが行われており、大空町の一部の小学校では、スキー授業の際に網走市営スキー場を利用しています。今後は、さらなる相互利用の促進を図っていくための方策や仕組みづくりが課題です。

このほか、両市町では、文化・スポーツ活動の一環として、数多くの講演やイベント等が開催されています。圏域における「人」の交流が盛んに行われることは、地域の活性化につながることから、圏域住民がイベント等の情報を共有し、相互に参加することが重要です。

【環境の分野】

藻琴湖は、藻琴川流域が軽しような火山性土壌から構成され、起伏の大きい流域であることから、降雨・融雪時に土砂が流入し、湖面積が年々減少しています。

また、網走湖は、湖内の富栄養化の進行に伴うアオコの発生や下層の無酸素塩水層が強風で浮上することにより生ずる青潮などの水質障害が発生しています。

こうしたことから、河川流域の関係機関が連携し、土砂流出防止対策をはじめとする河川環境の保全や湖の水質改善を図る取り組みが必要です。

圏域では、ごみの減量化と資源循環型社会の構築に向け、家庭ごみの有料化をはじめとするさまざまな取り組みが行われています。大空町では生ごみを津別町の施設で堆肥化し、廃プラスチックを資源化するとともに、燃やせるごみを焼却処分しています。

一方、網走市は従来、資源物を除いては一般ごみとして収集処理していましたが、平成29年度より「生ごみ」、「容器包装プラスチック」、「使用済紙おむつ類」、「埋立ごみ」の4種類に分別区分を変更し、「生ごみ」、「容器包装プラスチック」を再資源化することで、ごみの排出抑制と資源化に努めています。「埋立ごみ」は破碎処理し、減容後に埋め立てていますが、「使用済紙おむつ類」はにおいや鳥獣害を抑制するため、直接埋め立てていることから、今後は中間処理方法及び再資源化の可能性についての検討が必要です。

また、大空町は、住民の衛生環境の向上のため、平成4年から女満別地区、平成7年から東藻琴地区で下水道の整備に取り組んでいますが、経済的で効率的な汚水処理を図るため、自治体独自の下水道処理施設を保有せず、生活排水を網走終末処理場へ送水し、網走市と共同処理を行っています。しかし、汚水の送水流域において大雨や停電などの災害が発生した場合、大空町からの汚水送水を中断する必要があることから、災害時における対応が課題です。

【防災の分野】

網走地区消防組合は、網走市、大空町の1市1町で構成され、圏域の消防・救急活動を担っています。近年、消防の常備化の進展や産業・就業構造の変化に伴い、全国的に消防団員が減少傾向にあります。現在、網走地区消防組合内の消防団は、網走、女満別、東藻琴の3消防団が組織されており、定数417人に対し、実数367人（令和2年4月1日現在）が所属し、全体では定数に対して88%確保されていますが、少子高齢化の進行、被用者の増加などの社会経済情勢の変化により地域における防災活動の担い手を十分に確保することが困難となってきています。

こうしたことから、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行され、住民の積極的な参加の下に、地域に密着した消防団への理解をさらに深めるとともに、公務員をはじめとする女性消防団員の加入促進、消防団協力事業所の拡充、消防団員の処遇及び装備の改善など、引き続き団員確保のための取り組みが必要とされています。

消防・救急活動における無線通信は、出動隊への指揮命令や活動支援などに関する情報伝達、あるいは活動隊員間の情報共有に欠くことのできない消防インフラであり、常に良好な状態で維持する必要があります。

当圏域はこれまで、恵まれた自然環境と気象条件のもと、自然災害が少ない地域といわれてきていますが、近年は、地球温暖化の影響により、出水期の局地的・同時多発的な集中豪雨や長期化する大雨、冬期に急速に発達する低気圧（爆弾低気圧）による暴風雪など、気象状況が変化してきています。さらには、今後、発生が危惧される「千島海溝沿いの巨大地震」に備え、将来にわたり安全な暮らしを守るために、地域の条件や状況にふさわしい防災対策の強化が必要とされています。

圏域はそれぞれ、職員の動員体制や対応、指定避難所等の指定、避難所運営・災害発生時応急対策活動用の防災資機材の備蓄を行っていますが、今後の災害対応を考えた場合、応援職員の派遣方法や避難所の相互活用、防災教育の相互協力などのほか、備蓄品についても相互に供給することができる体制づくりといった防災体制の連携に向けた取り組みが必要です。

【福祉の分野】

子育てに対する親の負担軽減や、父親と子どもの触れ合う機会の創出等を図るために、認定こども園や保育園、子育て支援センターの役割が重要です。

少子化が進行する中、親が安心して子育てをし、すべての子どもたちが健やかに育つためには、地域社会全体で子育てを支えていくことがますます重要となっています。このことは、発達に特性や障がいがある子どもやその家族にとっても同様であり、必要な支援を受けるための広域的な施設として、網走市こども発達支援センターの役割が重要です。また、心身に障がいがある方等の社会参加を促進するためには、地域社会全体で障がいに対する理解を深め、生活を送る上でのさまざまな社会的障壁を取り除く必要があります。そのため、広

域的な地域資源を活用し、教育から就労支援を含めた長期的な支援体制の確立が重要です。

高齢化の進行に伴い支援が必要な高齢者の増加が見込まれるため、今後も増大する介護ニーズへの対応や質の高いサービスを提供する観点から、介護従事者等を安定的に確保するとともに、さらなる資質向上を図るため、人材育成等の支援が必要です。

また、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムのさらなる深化を図るため、行政をはじめ、介護や医療の専門職、地域や民生委員、ボランティア等が連携し、各地域の視点で支え合う仕組みづくりを推進することが求められています。

【産業振興の分野】

圏域の人口減少に伴い生産年齢人口も減少し続ける中、市場規模も縮小しており、加えて、新たな感染症流行などにより経済情勢は厳しさを増していることから、女性、高齢者、障がい者、季節労働者など、さまざまな就業ニーズに対応した雇用対策を進め、労働者の雇用の場を確保していくことが必要です。また、地域や地域資源の特性を活かし、新たなビジネスや産業が生まれ定着するよう、事業者等に対する支援や新たな雇用の場を生み出していく取り組みが求められています。

内水面漁業の生産が盛んな網走湖は、上層の淡水層と下層の塩水層を有する汽水湖です。高栄養塩を含み無酸素状態となっている下層の塩水層が上昇すると、アオコや青潮の発生頻度が高まり水質に影響を与える一方で、淡水層は塩水層から塩分を供給されることにより最適な塩分濃度となり、良好なシジミ漁場となっていることから、最適な塩水層と淡水層を維持させることが求められています。しかしながら、近年湖内水環境が変化し、シジミから異臭の発生や、低塩分化による産卵不振が起こり、資源量が減少しているため、さらなる資源管理対策や人工種苗生産による資源増大技術の開発が求められています。

【地域公共交通の分野】

人口減少と少子高齢化の進行とともに、自家用車に依存した生活が定着する中、路線バスなどの公共交通機関の利用者が減少し、運行便数の減少や路線の廃止が進み、利用者のさらなる減少につながっています。

超高齢社会における交通弱者の生活にとっては、地域公共交通は極めて重要なものであることから、圏域住民の移動手段としての地域公共交通の維持・確保が求められています。

【地域内外の住民との交流・移住促進の分野】

人口減少が進行する中、圏域のにぎわいを創出し、地域経済の活性化を図る観点から、定住のための取り組みとともに、移住や交流人口の拡大に向けた取り組みが重要です。今後は、観光の分野を端緒とした長期滞在・二地域居住を

はじめとするさまざまなニーズに対応するため、広域での受け入れやPR活動などの取り組みが求められています。

【人材育成の分野】

地方分権が推進される中、自立したまちづくりを進めていくためには、住民や企業、団体等と行政が一体となって、協働によるまちづくりに取り組む必要があります。今後、人口減少、少子高齢化がますます進んでいく中で、課題を解決するための地域の活動や役割はますます重要となります。そのため、地域活動で中心となるリーダーやまちづくりの担い手となる人材の育成が求められています。

【職員等の交流の分野】

近年、高度情報化の進展や社会経済情勢が大きく変化する中、高度化・多様化する住民ニーズに的確に対応し、継続的に高い成果を上げることのできる強い組織が求められています。そのためには、職員一人ひとりが、直面するさまざまな課題に即応できる高度な知識や政策形成能力を備えていくことが必要です。

今後、さらに変化する時代にあっては、視野の広い柔軟な発想を持った職員が求められるところであり、圏域の職員間の交流を促進し、相互の地域特性についての情報を共有し、より広域的な視点を持った職員の養成を図るため、圏域の職員研修の連携を図ることが必要です。

また、単独の自治体では少人数の対象職員しかいないような限られた専門分野の研修についても、スケールメリットを活かした合同開催が望まれます。

第3章 これまでの取組状況と今後の方向性

1. 生活機能の強化に係る政策分野

(1) 医療

【取組事項】

- ① 切れ目ない医療サービスの提供体制の維持、充実を図る。
- ② 初期医療機関と中核的病院の適切な役割分担と連携を推進し、救急医療体制を確保する。
- ③ 安心して子どもを産むことができる環境を維持するため、圏域内の小児科及び産科医療体制を維持・確保する。

【これまでの取組】

圏域住民に医療サービスを提供するため、各医療機関相互における適切な役割分担と連携を推進し、救急医療体制の確保を行うとともに、圏域で子どもたちを安心して産み育て、健康で暮らせる環境の維持・確保に取り組んだ。

一方、医療体制を維持するための圏域での医師や看護師など医療従事者の確保は、依然として厳しい状況にある。

【今後の方向性】

圏域における救急医療、小児科及び産科医療体制確保の取り組みは、圏域住民の安心な暮らしに重要であるが、医師をはじめとする医療従事者の確保は困難な状況である。

安全・安心な地域の医療を守っていくためには、各医療機関相互における役割分担と連携がより一層求められており、医療体制の維持、充実を図るため引き続き医療従事者の確保や医療体制の構築に取り組んでいく。

(2) 広域観光

【取組事項】

観光振興による圏域の活性化を図るため、国内及び海外からの観光客の誘致を促進する。

【これまでの取組】

圏域内の観光資源を国内外にPRするとともに、閑散期のイベント創出やチャーター便の誘致など、女満別空港を軸とする広域連携の取り組みを進めてきたが、航空運賃や貸切バス価格の高騰や供給不足などから首都圏や道央に集中する観光客の波及効果が道東まで及んでいない状況にある。

また、急増する外国人観光客への対応にも取り組んでいるが、さらなる利便性の向上が望まれている。

【今後の方向性】

多様化する国内外の観光客のニーズに対応するため、これまでに国の広域観光周遊ルート形成促進事業に認定された形成計画に係るテーマと取り組みを踏まえ、着地型商品の開発を促進するとともに、ひがし北海道の優位性のあるさまざまな観光素材の魅力をさらに向上させ、継続したプロモーション活動を行う必要がある。

また、LCC（格安航空会社）の誘致や地域滞在型・体験型プログラムとなるアクティビティ体験等のアドベンチャーツーリズムの推進など、流水や夏季観光シーズン以外の閑散期の入込客数拡大の取り組みも進めていく必要がある。

（3）教育

【取組事項】

生涯学習の機会拡大、文化・スポーツの振興等を図るため、教育施設の相互利用、文化・スポーツ等に関するイベント情報の共有を促進する。

【これまでの取組】

近隣市町の芸術文化事業担当者が参画するオホーツク文化事業ネットワーク会議への参画により、優良公演の情報や日程調整、特定財源に関する情報交換など、相互に有益な情報共有の促進を図った。

図書館においては、両自治体の3図書館で情報交換を進めており、各館の事業PRや連携を進めている。

スポーツにおいては、スキー場、スポーツ・トレーニングフィールドの利用が多く、利用調整を図り対応する施設もある。

【今後の方向性】

芸術文化振興を図る取り組みは、継続することで地域の文化度が醸成されていくものと考えられることから、関連するさまざまな取り組みを継続していくことが重要と考えられる。

今後もオホーツク文化事業ネットワーク会議への参画を積極的に推進し、近隣市町と情報共有を図りながら効果を高める取り組みが必要である。

3図書館の蔵書の収容能力にも限りがあるため、各館の特色を活かす蔵書計画も必要である。また、読書活動推進の効果を高めるため、3図書館で連携した取り組みも必要である。

スポーツ施設については、適正な維持管理、運営を行うとともに情報共有及び利用調整を図りながら、施設の相互利用の促進に努める。

(4) 環境

【取組事項】

自然環境を守るため、各種団体、ボランティア団体等と連携し、環境保護活動を展開する。

【これまでの取組】

「網走川流域農業・漁業連携推進協議会」・「網走川流域の会」・「藻琴川環境保全対策連絡協議会」等による各種環境保全に努める活動を各種団体等と連携して実施している。

【今後の方向性】

河川の流域環境保全活動は、水産資源の保護のみならず実践的な地域づくり活動としても成果を挙げていることから、引き続き、関係団体等と連携し環境保全活動を推進する。

網走市では平成 29 年度より新たな一般廃棄処理施設が稼働しているが、将来的には、広域処理の検討が必要である。

(5) 防災

【取組事項】

住民の安全を確保するため、消防、救急、防災体制の充実を図るとともに防災意識の啓発、研修等を推進する。

【これまでの取組】

網走市では、災害時に関係機関との綿密な連携が図られるよう、地域防災訓練を平成 22 年度から平成 31 年度までの間、実施した。

大空町では、平成 20 年度から毎年、地域住民（自治会）参加の上、地域防災訓練（女満別・東藻琴 1 年毎交互開催）を実施した。

また、網走市では、災害時に拠点避難施設となる小中学校 14 校に平成 25 年度から平成 29 年度までの 5 カ年間計画で、災害用備蓄品や防災資機材を整備し、現在は期限を迎えた非常食や消耗品の更新など適切な管理に努めている。

新たに、コミュニティ FM を利用した緊急告知防災ラジオの貸与を実施した。

避難所の感染症対策として必要な備蓄品の整備を図ったほか、標準版の避難所開設・運営マニュアルの改訂を行った。

大空町では、北海道市町村振興協会の助成金を活用し、平成 26 年度に防災資機材及び災害用備蓄品の整備、令和元年度に役場庁舎の非常用発電機を整備した。

【今後の方向性】

地域防災訓練は、実際の災害発生時に関係機関との緊密な連携をとれるようにするための意思疎通の向上、自治会・町内会の防災意識向上及び自主防災組織の設立推進に寄与するものであることから、引き続き実施していく必要がある。

網走市においては、災害発生時に拠点避難施設となる小中学校について、市で作成した標準マニュアルをもとに各小中学校に避難所運営委員会を設立する必要がある。

また、土砂災害警戒区域の指定完了により、ハザードマップや避難計画等の見直しが必要である。コミュニティFMを利用した緊急告知防災ラジオについては、弱電地区の解消等広域的な取り組みが求められる。

大空町では、自主防災組織の組織化が遅れていることから、引き続き、地域の協力を得ながら自主防災組織の設立を支援していく必要がある。

(6) 福祉

【取組事項】

児童・障がい者・高齢者に対する各種福祉サービスの充実を図るため、福祉サービスの相互利用や福祉に関するネットワーク構築、福祉サービス従事者の育成を推進する。

【これまでの取組】

児童・障がい者については、保育所、子育て支援センター、網走市こども発達支援センターなどといった施設を中心に相互利用の促進や支援を行っている。

高齢者については、介護保険制度の要である介護支援専門員の支援体制の強化を図るため各種研修会等を開催しているほか、地域包括ケアシステムの推進を図るため、各地域において意見交換を行ってきた。また、認知症高齢者やその家族を温かく見守り支援するため、小中学生などの若い世代も対象として認知症サポーターの養成に努めてきた。

【今後の方向性】

児童・障がい者については、引き続き、各施設を中心とした圏域の子育て環境の充実化を図っていくとともに、障がいがある方に対する支援について、地域資源の活用を含め広域での体制整備を図る。また、日本体育大学附属高等支援学校との連携についても必要なサポート体制の構築等連携を図っていくことが必要である。

高齢者については、介護支援専門員の支援体制の強化、認知症サポーターの養成などに引き続き取り組むとともに、各地域・関係機関と連携し、地域における新たな支え合いの仕組みづくりを推進する。

(7) 産業振興

【取組事項】

- ① 圏域経済の活性化と雇用の創出を図るため、産学官金連携等も含め新たな技術開発の取り組みを推進し、地域の資源を活用した新商品の創出や販路拡大を図る。
- ② 網走湖のシジミ・ワカサギなど、有用な水産資源の現存量、再生産状況の把握、増養殖技術の実用化によって資源の維持・増大を図り、漁業者所得を向上させる。
- ③ 優れた農業経営者や地域リーダーを育成するため、農業後継者及び新規参入者を対象とする研修の実施に対する支援を行う。また、新規参入者に対し就農時準備等に要する経費の一部を支援することにより、円滑な就農を推進する。
- ④ 有害鳥獣による農林業被害、人的被害を防止するために捕獲・駆除を推進することと併せて、個体数や生息実態の調査を実施する。

【これまでの取組】

- ① 地域の雇用の増加を促すために、ものづくりの総合的な支援に取り組むとともに製品の販路拡大を図るため、商談会、物販事業の展開に取り組む事業者を支援している。
- ② 水産業におけるシジミ、ワカサギ、シラウオについては、資源量調査を実施し、総資源量の推定を行い、資源管理型漁業を実践している。
- ③ 農業においては、農業協同組合が実施する育成研修により、農業後継者の圃場作業から経営管理に至るまでの実践的な技術や知識の習得を図っている。また、新規参入者については、経営開始から5年以内に取得した農地等に係る固定資産税相当額の5ヵ年間分を補助することにより、円滑な就農を支援している。
- ④ 有害鳥獣の捕獲・駆除等の実施により、農林業被害の防止に努めている。
ヒグマの生息実態調査を実施し、生息数の把握や移動ルートなどの可視化、専門家による住民向け講座等を開催している。
ヒグマに関する基礎データの収集や住民の知識向上など生態について理解を深めるとともに、農業被害防止対策の検討に向けた取り組みを開始した。

【今後の方向性】

- ① 新型コロナウイルスの対策として新しい生活様式が広がる中、消費動向も大きく変化している。こうした状況において、ものづくりの一層の促進や、地域の雇用を確保していくためには、産学官金等の関係機関が連携を図り、お互いの情報を共有しながら、市場ニーズに則した事業の展開や若年労働者の人材育成、働きやすい職場環境の充実を図ることが求められる。
販路拡大については、新たな市場として海外展開やインターネットなどITを活用した取り組みの強化が必要である。
- ② 水産業については、従前の資源量調査や環境調査を継続し、データを蓄積す

ることにより資源管理精度の向上を目指すとともに、減少しているシジミ資源増大のために、人工種苗生産、放流技術の開発が必要とされている。

③ 農業後継者については、今後も新たな知識・技術を習得することにより、その成果を地域農業に普及させることが必要である。また、新規農業参入については、円滑に就農できる支援体制を構築し、さらなる就農の安定化を図る必要がある。

④ 有害鳥獣対策については、農業被害を抑えるために今後も捕獲・駆除等を実施し、引き続きエゾシカの個体数の把握に努める必要がある。

ヒグマについても生息調査を継続して実施し、蓄積したデータから効果的な農業被害防止対策を検討するとともに、人的要因（ポイ捨て、ゴミ出しの仕方等）によりヒグマを引き寄せない、餌付かせないよう、住民の意識を向上させる取り組みが必要である。

2. 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

（1）地域公共交通

【取組事項】

住民の移動手段を確保するため、圏域における公共交通の課題について調査、検証するとともにバス路線等を維持・確保する。

【これまでの取組】

網走市では、公共交通空白地域に、コミュニティバスや事前予約型乗合タクシーを整備しており、郊外地区における公共交通についても、各地域の住民の方々と意見交換を実施し、ニーズの把握に努めているほか、デマンドバスの実証実験などに取り組み、地域公共交通の維持、確保に努めている。

また、大空町においても各地域のニーズの把握に努めている。

【今後の方向性】

網走市地域公共交通計画に基づき、コミュニティバス、事前予約型乗合タクシー、デマンドバスの可能性を検討するとともに、地域において、さらなる高齢化が進展することにより、交通弱者対策の必要性も高まると想定されることから、継続的に利用状況・ニーズ等を検証し、持続可能な交通体系の構築を進めていく必要がある。

(2) 地域内外の住民との交流・移住促進

【取組事項】

- ① 移住・長期滞在を促進するため、暮らしや滞在に関する情報提供や受入体制の充実を図る。
- ② 交流人口の拡大を図るため、文化・スポーツ合宿や各種イベント情報の共有を推進する。

【これまでの取組】

長期滞在や二地域居住の人数は、横ばいの状況が続いている。
文化・スポーツ合宿は夏場を中心に利用が進んでいる。

【今後の方向性】

お試し暮らしなどの取り組みは一定の成果を上げているが、直ちに移住・定住につなげることは難しいことから、将来的な移住・定住を見据えながら、圏域に継続的な関わりをもつ関係人口の創出・拡大を図る必要がある。

合宿誘致の取り組みは成果を上げているが、合宿が夏場に集中しているため、宿泊施設などの充実や圏域内外の市町との情報共有を進めていく必要がある。

3. 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

(1) 人材育成

【取組事項】

地域力の向上を図るため、各分野の人材育成や研修機会の創出などを推進する。

【これまでの取組】

東京農業大学と連携した「オホーツクものづくり・ビジネス地域創成塾」などの取り組みにより、地域活動を導くリーダーやまちづくりの担い手となる人材の育成が図られている。

【今後の方向性】

まちづくりの担い手に求められるスキルも多種・多様化していることから、引き続き、大学等関係機関と連携し人材育成事業を推進するとともに、より高度な人材を育成するための取り組みを進めることが必要である。

(2) 圏域内市町の職員等の交流

【取組事項】

職員の資質及び政策課題への対応力を高める。

【これまでの取組】

「まちづくり」をテーマに、政策形成研修、長期政策研修を圏域職員合同研修として交互に毎年実施している。研修が、情報の共有や新たな気づきの場となる一方、網走市と大空町の職員数及び年代構成の違いから、受講対象者の選定に苦慮している。

社会教育分野においては、網走ブロック市町村教育委員会協議会「社会教育関連広域事業」があり、その事業を円滑に進めるために社会教育主事、図書館司書、社会体育担当者等の専門職員が一堂に集まり、各分野のさまざまな事業の情報共有や自己研鑽を行ってきている。

【今後の方向性】

圏域職員の意見交換や情報共有の場として、引き続き研修に取り組んでいく必要がある。

今後も関係団体と連携して「社会教育関連広域事業」を継続・推進し、職員の資質向上と情報共有を図るとともに、安定的な専門職員の配置に取り組む必要がある。また、社会教育施設として図書館機能を高めるため、今後も専門職員研修を通してレベルアップに取り組んでいくことが必要である。

第4章 圏域の将来像

わが国の総人口は、長期の減少過程に入っており、2053年には1億人を割るとされています。

総人口の減少、出生数の減少に伴う少子高齢化の影響により、生産年齢人口は減少を続けており、経済規模の縮小と社会保障費の増大が懸念されています。

本圏域においてもその傾向は同様であり、単独の市町村だけですべての生活機能を確保することが困難な時代を迎えようとしています。

網走国定公園に位置する本圏域は、ラムサール条約登録湿地の濤沸湖をはじめとする大小5つの湖や河川、藻琴山などを擁し、世界自然遺産の知床国立公園や阿寒摩周国立公園に隣接し、冬季には流氷が接岸するなど、豊かな自然環境に恵まれた地域です。

オホーツク海や網走湖などから水揚げされる豊富な水産物や、食糧基地として国内の穀物生産を支える広大な畑作地帯から収穫される農産物など、豊富な資源に支えられた一次産業と、海、山、湖、さらに冬の流氷など自然を活かした観光業が基幹産業です。

また、オホーツク流氷館や博物館網走監獄、東藻琴芝桜公園などの多くの観光施設や、モヨロ貝塚や道立北方民族博物館など、学術的にも重要な文化施設があります。

さらに、本圏域では、東北海道の玄関口である女満別空港の存在と、体育・文化施設や医療機関が充実していることから、夏の冷涼な気候を活かして、スポーツや文化活動の合宿が盛んに行われており、ラグビー・トップリーグ所属チームをはじめ、陸上などの多くのトップアスリートが訪れています。

今後ますます進行する人口減少・超高齢社会において、誰もが活躍し、将来にわたり安心して暮らし続けることができる圏域であるためには、保健、医療、地域交通、コミュニティなどの生活機能を確保するとともに、圏域の特性を活かした取り組みによる産業振興、交流・関係人口の創出、結婚・出産・子育てがしやすい環境づくり、将来を担う人材育成などに圏域全体で取り組む必要があります。

日常生活圏を共有する両市町は、互いの独自性を尊重するとともに、これまでに以上に連携を強化し、それぞれの役割に応じた取り組みにより、都市機能・生活機能の維持・確保に努め、誰もが健康で活躍し、安心して暮らし続けることのできる圏域を目指します。

・圏域の将来人口推計と目標

	平成22年 (実績)	平成27年 (実績)	令和22年 (社人研推計)	令和22年 (目標)
圏域	48,931人	46,437人	32,563人	38,757人
網走市	40,998人	39,077人	27,896人	32,817人
大空町	7,933人	7,360人	4,667人	5,940人

第5章 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取組

定住自立圏形成協定を踏まえ、生活機能、結びつきやネットワーク及び圏域マネジメント能力の強化に係る分野において以下の具体的取組を推進し、将来像の実現を目指します。

1. 取組の体系

政策分野	協定分野	協定事項	具体的取組	成果指標	
生活機能の強化	医療	救急医療体制の確保	1. 地域センター病院・地域基幹病院等支援事業	救急医療体制の対応日数 365日/年 → 365日/年	
			2. 広域救急医療体制の維持・確保対策事業	休日救急体制の対応日数 72日/年 → 72日/年	
			3. 通院に係る交通手段確保対策事業		
			4. 医療関係者等による連携体制の構築事業		
		小児科及び産科医療体制の確保	5. 小児科・産科医療体制の維持・確保対策事業	産科医療機関数 2施設 → 2施設 小児科医療機関数 4施設 → 4施設	
	広域観光	観光振興の推進	6. 国内・外国人観光客誘致事業	女満別空港利用者数 81.1万人/年 → 108万人/年	
	教育	生涯学習の充実	7. 社会教育施設相互利用事業 8. イベント開催情報等情報共有事業	住民対象講座の受講者数 2,701人/年 → 3,680人/年	
	環境	地域ぐるみによる環境関連活動の推進	9. 地域美化活動支援事業	藻琴川環境保全対策連絡協議会の取組への参加 1件/年 → 1件/年	
			10. 河川環境保全対策事業	網走湖環境保全対策推進協議会の取組への参加 1件/年 → 1件/年	
		生活環境・衛生環境の向上	11. 廃棄物処理施設の広域化検討事業	下水道終末処理施設 1施設 → 1施設	
			12. 下水道終末処理施設・し尿処理施設運営事業	し尿処理施設 1施設 → 1施設	
	防災	防災対策活動の推進	13. 網走地区消防組合運営事業 14. 災害時相互応援体制整備事業	網走市、大空町合同の防災訓練実施 0回 → 1回/年	
	福祉	福祉サービスの向上	15. 子育て支援広域化事業 16. 障がい者支援広域化事業 17. 高齢者支援広域化事業	子育て支援センター利用率 2% → 5% 認知症サポーター養成人数 4,429人 → 5,429人	
	産業振興	圏域経済の活性化と雇用の創出	18. 新製品の開発・支援、販路拡大促進事業	事業所の従業員数 19,052人 → 19,400人	
		水産資源の確保	19. 網走湖の有用資源調査事業	網走湖漁獲量(3ヶ年平均) 844t → 900t	
		農業担い手の育成及び新規参入者の確保	20. 農業担い手育成事業、新規農業参入者確保事業	新規農業参入者数(3ヶ年平均) 1人 → 2人	
		有害鳥獣の対策	21. 有害鳥獣による被害防止対策事業	農林業被害の減少 72,232千円 → 52,228千円	
	結びつきやネットワークの強化	地域公共交通	地域公共交通の維持・確保	22. 生活路線バスの維持・確保事業	日常生活圏域内における中心市を介して往来可能なエリア数 7 → 7
		地域内外の住民との交流・移住促進	交流・移住受入体制の促進	23. 移住促進体制強化事業	お試し暮らし体験数(3ヶ年平均) 8件/年 → 15件/年
			交流人口の拡大	24. 文化・スポーツ合宿誘致とイベント開催の情報共有事業	スポーツ合宿参加人数 1,870人/年 → 2,000人/年
	圏域マネジメント能力の強化	人材の育成	人材の育成	25. 産学官金連携推進事業 26. 研究・研修機会創出事業	未来を育める圏域センターキンググループ活動数 0回 → 3回/年
圏域内市町の職員等の交流			市町間職員研修交流	27. 圏域職員合同研修事業	合同研修の実施回数 1回/年 → 1回/年

I 生活機能の強化に係る具体的取組

(1) 医療

ア. 救急医療体制の確保

〔形成協定の取組内容〕

圏域住民に切れ目ない医療サービスを提供するため、日常生活に密着した初期医療機関と中核的病院の適切な役割分担と連携を推進し、救急医療体制の確保に取り組む。

評価指標	救急医療体制の対応日数	365 日/年→365 日/年
	休日救急体制の対応日数	72 日/年→72 日/年

事業名	1 地域センター病院・地域基幹病院等支援事業	関係市町
事業概要	地域センター病院である網走厚生病院に対し、病院建設資金及び感染症対策、圏域に欠かせない医療機能の確保や高度医療機器の整備など、安定的な体制構築への支援を行う。 また、地域基幹病院である女満別中央病院の医療機器・施設整備、医師・看護師確保のための支援を行う。	網走市 大空町
役割分担の考え方	網走市が網走厚生病院への支援を行う。 大空町が女満別中央病院への支援を行う。 両市町は、斜網地域 1 市 4 町による支援として、網走厚生病院脳神経外科の運営に必要な経費の一部を負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
網走厚生病院整備支援事業	協定書 別表 1 (1)ア	網走市	75,250	74,200	73,150	72,100	71,050
高度医療機器等整備支援事業		網走市	270,000	0	0	0	0
網走厚生病院脳神経外科運営支援事業		網走市	45,965	45,965	45,965	45,965	45,965
女満別中央病院医療環境等充実事業		大空町	81,500	81,500	81,500	81,500	81,500
網走厚生病院脳神経外科運営支援事業負担金		大空町	4,850	4,850	4,850	4,850	4,850
		合計	477,565	206,515	205,465	204,415	203,365

事業名	2 広域救急医療体制の維持・確保対策事業	関係市町
事業概要	網走医師会による救急医療体制の運営を支援するとともに、救急医療知識の普及啓発を行う。 また、遠隔地における一次医療の確保のため、東藻琴診療所の維持管理を行うとともに、網走厚生病院の救急医療体制を維持するための支援を行う。	網走市 大空町
役割分担の考え方	両市町は救急医療体制の運営に必要な経費の一部を負担する。 大空町は東藻琴診療所の維持・管理に必要な経費を負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
救急医療体制づくり事業	協定書 別表 1 (1)ア	網走市	25,992	25,992	25,992	25,992	25,992
24 時間電話健康相談サービス事業		網走市	5,514	5,514	5,514	5,514	5,514
女満別中央病院医療環境等充実事業		大空町	81,500	81,500	81,500	81,500	81,500
東藻琴診療所管理運営費		大空町	21,426	25,926	25,126	21,426	21,426
網走地区救急医療対策事業		大空町	2,168	2,720	2,720	2,720	2,720
24 時間電話健康相談事業		大空町	1,649	1,649	1,649	1,649	1,649
		合 計	138,249	143,301	142,501	138,801	138,801

事業名	3 通院に係る交通手段確保対策事業	関係市町
事業概要	網走東部・西部の郊外地区の患者に対し、通院のための送迎を行う。 また、東藻琴地区各集落の患者に対し、東藻琴診療所までの輸送を行う。	網走市 大空町
役割分担の考え方	網走市が網走東部・西部の郊外地区の患者送迎を行う。 大空町が東藻琴地区集落の患者輸送を行う。	

【事業費】 (千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
患者送迎車運行事業	協定書 別表 1 (1)ア	網走市	4,322	4,322	4,322	4,322	4,322
患者輸送車運行事業		大空町	3,338	3,338	3,338	3,338	3,338
		合計	7,660	7,660	7,660	7,660	7,660

事業名	4 医療関係者等による連携体制の構築事業	関係市町
事業概要	北網圏域地域医療構想調整会議に参加する。	網走市 大空町
役割分担の考え方	両市町は、病院間連携・協力体制の構築を支援する。	

【事業費】 (千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
北網圏域地域医療構想調整会議に参加	協定書 別表 1 (1)ア	網走市	0	0	0	0	0
北網圏域地域医療構想調整会議に参加		大空町	0	0	0	0	0
		合計	0	0	0	0	0

イ. 小児科及び産科医療体制の確保

〔形成協定の取組内容〕

圏域の住民が安心して子どもを産む環境を維持するため、圏域内の小児科及び産科医療体制の維持・確保に取り組む。

評価指標	産科医療機関数	2 施設→2 施設
	小児科医療機関数	4 施設→4 施設

事業名	5 小児科・産科医療体制の維持・確保対策事業	関係市町
事業概要	地域センター病院である網走厚生病院に対し、小児医療及び周産期医療の安定的な確保を図るための支援を行う。	網走市 大空町
役割分担の考え方	網走市が網走厚生病院への支援を行う。 両市町は、斜網地域 1 市 4 町による支援として、周産期医療提供体制の確保に必要な経費の一部を負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
網走厚生病院小児医療等運営補助金事業	協定書 別表 1 (1)イ	網走市	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000
斜網地域周産期医療支援事業		網走市	12,865	12,865	12,865	12,865	12,865
斜網地域周産期医療支援事業負担金		大空町	1,965	1,965	1,965	1,965	1,965
		合計	62,830	62,830	62,830	62,830	62,830

(2) 広域観光

ア. 観光振興の推進

<p>〔形成協定の取組内容〕</p> <p>観光振興による圏域の活性化を図るため、国内及び海外からの観光客の誘致に取り組む。</p>
--

評価指標	女満別空港利用者数	81.1 万人/年 → 108 万人/年
------	-----------	----------------------

事業名	6 国内・外国人観光客誘致事業	関係市町
事業概要	国内外の観光客誘致に向けたプロモーション活動及び観光PR活動等を行う。	網走市 大空町
役割分担の考え方	両市町がそれぞれ負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
外国人観光客誘致促進事業	協定書 別表 1 (2)ア	網走市	11,865	11,865	10,365	10,365	10,365
観光PR事業(国内)		網走市	8,026	8,026	8,026	8,026	8,026
広域観光振興事業		網走市	374	374	374	374	374
女満別空港整備利用促進協議会負担金		網走市	300	300	300	300	300
観光情報クロスメディア発信事業		大空町	1,194	4,694	1,194	2,558	1,194
空港対策費		大空町	6,418	6,418	6,418	6,418	6,418
		合計	28,177	31,677	26,677	28,041	26,677

(3) 教育

ア. 生涯学習の充実

<p>〔形成協定の取組内容〕</p> <p>圏域内における、生涯学習の機会拡大、文化・スポーツの振興等を図るため、教育施設の相互利用、文化・スポーツ等に関するイベント情報の共有などに取り組む。</p>
--

評価指標	住民対象講座の受講者数	2,701人/年 → 3,680人/年
------	-------------	---------------------

事業名	7 社会教育施設相互利用事業	関係市町
事業概要	図書館や体育施設の相互利用を促進するとともに、図書館利用者の利便性向上のため、インターネットを活用した蔵書管理システムの運用を行う。	網走市 大空町
役割分担の考え方	両市町がそれぞれ負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
図書館資料整備事業	協定書別表1 (3)ア	網走市	8,878	8,878	8,878	8,878	8,878
図書館管理運営事業 (事業内委託料のみ)		網走市	370	370	370	370	370
体育施設管理運営事業		網走市	56,338	55,838	56,298	56,038	56,138
大空町図書館管理運営事業		大空町	60,587	108,047	58,801	58,890	75,757
移動図書館車運行事業		大空町	50	350	50	350	50
体育施設一般管理費		大空町	20,533	20,402	20,502	20,402	20,533
			合計	146,756	193,885	144,899	144,928

事業名	8 イベント開催情報等情報共有事業	関係市町
事業概要	文化・スポーツ事業を行うとともに、圏域で開催される講演やイベント情報を、ホームページ等を通じて圏域住民へ周知する。	網走市 大空町
役割分担の考え方	両市町がそれぞれ負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
オホーツク・文化交流センター芸術文化事業	協定書 別表 1 (3)ア	網走市	5,742	9,242	5,742	9,242	5,742
社会教育振興補助事業		網走市	2,700	1,200	2,700	1,200	2,700
成人講座開設事業		網走市	8,858	8,858	8,858	8,858	8,858
市民大学講座開設事業補助金		網走市	855	855	855	855	855
文化祭開催事業		大空町	815	815	815	815	815
スポーツ活動振興事業		大空町	4,122	4,122	4,122	4,122	4,122
			合計	23,092	25,092	23,092	25,092

(4) 環境

ア. 地域ぐるみによる環境関連活動の推進

〔形成協定の取組内容〕

圏域の自然環境を守るため、各種団体、ボランティア団体などで行う環境保護活動などに取り組む。

評価指標	藻琴川環境保全対策連絡協議会の取組への参加	1件/年→1件/年
	網走湖環境保全対策推進協議会の取組への参加	1件/年→1件/年

事業名	9 地域美化活動支援事業	関係市町
事業概要	環境保全のためのボランティア活動や、公共施設の清掃活動等に対し、ごみ袋を無償配布するなどの支援を行う。	網走市 大空町
役割分担の考え方	両市町がそれぞれ負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
地域美化協定事業	協定書 別表 1 (4)ア	網走市	343	88	343	88	343
ボランティア袋の配布		大空町	99	99	99	99	99
		合計	442	187	442	187	442

事業名	10 河川環境保全対策事業	関係市町
事業概要	藻琴川環境保全対策連絡協議会、網走湖環境保全対策推進協議会に構成員として参加し、藻琴川及び網走川の河川環境と流域環境の保全のために必要な協議活動を推進する。	網走市 大空町
役割分担の考え方	両市町がそれぞれ両協議会に参加し推進する。 大空町は藻琴川環境保全活動を実施する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
藻琴川環境保全対策連絡協議会に参加	協定書 別表 1 (4)ア	網走市	0	0	0	0	0
網走湖環境保全対策推進会議に参加		網走市	0	0	0	0	0
藻琴川環境保全対策連絡協議会に参加		大空町	0	0	0	0	0
網走湖環境保全対策推進会議に参加		大空町	0	0	0	0	0
		合計	0	0	0	0	0

イ. 生活環境・衛生環境の向上

〔形成協定の取組内容〕

一般廃棄物処理について、広域的な連携構想を含めた基本計画の策定について検討するとともに、生活排水やし尿汚泥の処理に係る施設の維持整備に取り組む。

評価指標	下水道終末処理施設	1施設→1施設
	し尿処理施設	1施設→1施設

事業名	11 廃棄物処理施設の広域化検討事業	関係市町
事業概要	各市町が管理する廃棄物処理設備を相互に活用した総合的な処理方法を検討するとともに、循環型社会の構築・推進に向けた取り組みを連携して行う。 斜網ブロックごみ処理広域化計画推進連絡会議に参加し、将来のごみ処理施設整備に向けて、広域での処理方法のあり方等について検討する。	網走市 大空町
役割分担の考え方	両市町がそれぞれ負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
斜網ブロックごみ処理広域化計画推進連絡会議に参加	協定書別表1 (4)イ	網走市	0	0	0	0	0
		大空町	0	0	0	0	0
		合計	0	0	0	0	0

事業名	12 下水道終末処理施設・し尿処理施設運営事業	関係市町
事業概要	圏域の生活排水やし尿、汚泥の共同処理を行う。	網走市 大空町
役割分担の考え方	両市町がそれぞれ負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
下水道事業	協定書別表1 (4)イ	網走市	247,396	247,396	247,396	247,396	247,396
し尿処理事業		網走市	47,637	47,637	47,637	47,637	47,637
下水道事業		大空町	44,800	44,800	44,800	44,800	44,800
網走し尿処理施設負担金		大空町	22,611	22,611	22,611	22,611	22,611
		合計	362,444	362,444	362,444	362,444	362,444

(5) 防災

ア. 防災対策活動の推進

〔形成協定の取組内容〕

圏域住民の安全を確保するため、消防、救急、防災体制の充実を図るとともに防災意識の啓発、研修等に取り組む。

評価指標	網走市、大空町合同の防災訓練実施	0回→1回/年
------	------------------	---------

事業名	13 網走地区消防組合運営事業	関係市町
事業概要	圏域の消防事務を共同処理するため、網走地区消防組合を組織、運営する。	網走市 大空町
役割分担の考え方	両市町がそれぞれ負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
網走地区消防組合負担金（共通経費）	協定書 別表 1 (5)ア	網走市	160,832	170,918	174,730	143,176	139,880
網走地区消防組合負担金（単独経費）		網走市	600,253	539,720	587,461	548,412	541,237
網走地区消防組合負担金（共通経費）		大空町	43,294	44,069	43,912	44,803	42,371
網走地区消防組合負担金（単独経費）		大空町	426,491	355,491	355,491	347,991	384,991
		合計	1,230,870	1,110,198	1,161,594	1,084,382	1,108,479

事業名	14 災害時相互応援体制整備事業	関係市町
事業概要	住民の防災意識の向上と災害発生時の住民、関係機関の綿密な連携が図られるよう、防災訓練を実施するほか、災害用備蓄品の整備や災害発生時における応援職員の派遣や生活物資の供給、資機材の提供等のほか、避難者・児童生徒の受け入れなど、両市町の相互応援体制の整備を図る。	網走市 大空町
役割分担 の考え方	両市町がそれぞれ負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
防災諸費	協定書 別表 1 (5)ア	網走市	658	658	658	658	658
災害時相互応援体制 整備事業		網走市	0	0	0	0	0
災害対策事務費		大空町	2,362	2,362	2,362	2,362	2,362
災害時相互応援体制 整備事業		大空町	0	0	0	0	0
		合 計	3,020	3,020	3,020	3,020	3,020

(6) 福祉

ア. 福祉サービスの向上

〔形成協定の取組内容〕 児童・障がい者・高齢者に対する各種福祉サービスの充実を図るため、福祉サービスの相互利用や福祉に関するネットワーク構築、福祉サービス従事者の育成などについて取り組む。

評価指標	子育て支援センター利用率	2%→5%
	認知症サポーター養成人数	4,429人→5,429人

事業名	15 子育て支援広域化事業	関係市町
事業概要	仕事と育児の両立を支援するため、認定こども園、保育所の相互利用を促進する。子育て家庭への育児支援を行うため、網走市地域子育て支援センターと大空町児童センターの相互利用を促進する。	網走市 大空町
役割分担の考え方	保育所の設置・運営は、両市町がそれぞれ負担する。 網走市地域子育て支援センターの設置・運営は、網走市が負担する。 大空町児童センター・児童クラブの設置・運営は、大空町が負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
保育所管理運営事業	協定書 別表 1 (6)ア	網走市	64,611	64,332	64,527	64,409	64,518
地域子育て支援センター運営事業		網走市	15,799	15,664	15,779	15,664	15,779
広域入所事業		大空町	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
女満別地区認定こども園管理費		大空町	115,938	115,938	115,938	115,938	115,938
東藻琴地区認定こども園管理費		大空町	55,113	91,524	91,524	91,524	91,524
東藻琴保育園管理運営費		大空町	6,428	0	0	0	0
託児通所助成事業		大空町	360	360	360	360	360
児童センター・児童クラブ等管理運営事業		大空町	43,276	43,276	43,276	43,276	43,276
		合計	303,025	332,594	332,904	332,671	332,895

事業名	16 障がい者支援広域化事業	関係市町
事業概要	心身に障がい又は発達に心配のある児童と家族への必要な支援を行うため、網走市こども発達支援センターの広域的な活用を図るほか、日本体育大学附属高等支援学校の運営に必要な支援措置などを行い、地域における教育や就労支援等の障がい者サポート体制の充実を図る。	網走市 大空町
役割分担の考え方	網走市こども発達支援センターの設置・運営は、網走市が負担する。 大空町が実施する乳幼児健診の職員派遣に要する経費は、大空町が負担する。 網走市が日本体育大学附属高等支援学校への支援を行う。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
こども発達支援センター管理運営事業	協定書 別表1 (6)ア	網走市	17,933	17,835	17,933	17,835	17,933
学校法人 日本体育大学との連携		網走市	6,286	6,286	6,286	6,286	6,286
日体大高等支援学校入学支援補助金		網走市	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
日体大高等支援学校施設整備事業補助金		網走市	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
網走市こども発達センター運営事業負担金		大空町	264	264	264	264	264
学校法人 日本体育大学との連携		大空町	3,031	3,031	3,031	3,031	3,031
		合計	43,514	43,416	43,514	43,416	43,514

事業名	17 高齢者支援広域化事業	関係市町
事業概要	介護・高齢者福祉に従事する専門職の資質向上、ボランティアの養成を図るため、ネットワークの構築及び情報交換を目的とした各種研修や交流機会の場を設ける。	網走市 大空町
役割分担の考え方	介護・高齢者福祉の研修、交流事業は、両市町がそれぞれ負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
認知症サポーター養成事業	協定書 別表1 (6)ア	網走市	245	245	245	245	245
認知症サポーター養成事業		大空町	32	32	32	32	32
		合計	277	277	277	277	277

(7) 産業振興

ア. 圏域経済の活性化と雇用の創出

〔形成協定の取組内容〕

圏域経済の活性化と雇用の創出を図るため、地場産業の振興に取り組むとともに、圏域の資源を活用した新商品の創出や販路拡大の促進及び産学官金連携等も含め新たな技術開発に取り組む。

評価指標	事業所の従業員数	19,052 人→19,400 人
------	----------	-------------------

事業名	18 新製品の開発・支援、販路拡大促進事業	関係市町
事業概要	地域特産品の創出と産業の活性化を図るため、中小企業者等が行う新製品や新技術の開発、商品化に向けた取り組みへの支援及び販路開拓・拡大に関する事業を実施する。 地域の特性を活かした新しい地場産業を振興する団体等を支援する。	網走市 大空町
役割分担の考え方	両市町がそれぞれ負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
ものづくり総合支援事業	協定書 別表1 (7)ア	網走市	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800
地場産品市場開拓推進事業		網走市	1,183	1,183	1,183	1,183	1,183
元気づくり応援事業補助金		大空町	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
地場産品販売促進事業		大空町	2,325	2,325	2,325	2,325	2,325
		合計	8,308	8,308	8,308	8,308	8,308

イ. 水産資源の確保

〔形成協定の取組内容〕

網走湖の有用資源を有効的に利用するため、有用資源及び水質環境を総合的に調査するとともに環境改善対策の検討などに取り組む。

評価指標	網走湖漁獲量(3ヶ年平均)	844t → 900t
------	---------------	-------------

事業名	19 網走湖の有用資源調査事業	関係市町
事業概要	網走湖の有用資源であるワカサギ、シラウオ、シジミについて現存量及び再生産状況の把握並びに水質環境について総合的に調査を行うとともに、網走湖に関する環境対策について関係省庁などに要望を行う。	網走市 大空町
役割分担の考え方	両市町がそれぞれ負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
網走湖水質・資源調査事業補助金	協定書 別表1 (7)イ	網走市	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500
網走湖ヤマトシジミ資源安定化対策事業		網走市	500	500	500	0	0
水産業振興対策補助金		大空町	2,049	2,049	2,049	2,049	2,049
		合計	5,049	5,049	5,049	4,549	4,549

ウ. 農業担い手の育成及び新規参入者の確保

〔形成協定の取組内容〕

優れた農業経営者又は地域リーダーを育成するため、農業後継者及び新規参入者の研修支援に取り組むとともに、今後の地域農業の発展のため、新規農業参入者が、円滑に就農できる支援体制の構築に取り組む。

評価指標	新規農業参入者数(3ヶ年平均)	1人 → 2人
------	-----------------	---------

事業名	20 農業担い手育成事業、新規農業参入者確保事業	関係市町
事業概要	優れた農業経営者又は地域リーダーを育成するため、農業後継者及び新規参入者を対象とする研修を支援するとともに、新規参入者に対し、就農時準備等に要する経費の一部を支援することにより、円滑な就農を推進する。	網走市 大空町
役割分担の考え方	両市町がそれぞれ負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
担い手実践研修支援事業	協定書 別表1 (7) ア	網走市	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
新規農業参入者支援事業		網走市	450	450	450	450	450
担い手実践研修支援事業		大空町	900	900	900	900	900
		合計	4,350	4,350	4,350	4,350	4,350

エ. 有害鳥獣の対策

〔形成協定の取組内容〕

有害鳥獣の駆除・捕獲や調査等を実施し、農林業・人的被害を防止するための対策の検討に取り組む。

評価指標	農林業被害の減少 (年間被害金額の概ね3割削減を目標値とする)	72,232千円 → 52,228千円 ※網走市及び大空町の合計額
------	------------------------------------	--------------------------------------

事業名	21 有害鳥獣による被害防止対策事業	関係市町
事業概要	有害鳥獣による農林業・人的被害を防止するため捕獲・駆除等の実施や調査を実施する。また、狩猟者確保のため、狩猟免許取得に係る費用等の助成を行う。	網走市 大空町
役割分担の考え方	両市町がそれぞれ負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
鳥獣被害防止対策事業	協定書 別表1 (7)ア	網走市	5,610	5,610	5,610	5,610	5,610
網走市鳥獣被害防止対策協議会負担金		網走市	103	103	103	103	103
狩猟免許取得支援事業		網走市	150	150	150	150	150
ヒグマ生息実態調査事業		網走市	900	900	900	900	900
有害鳥獣駆除推進事業		大空町	3,552	3,522	3,522	3,522	3,522
		合計	10,315	10,285	10,285	10,285	10,285

Ⅱ 結びつきやネットワークの強化に係る具体的取組

(1) 地域公共交通

ア. 地域公共交通の維持・確保

〔形成協定の取組内容〕

圏域内住民の移動手段を確保するため、圏域における公共交通の課題について継続的に調査、検証するとともに、バス路線等の維持・確保対策に取り組む。

評価指標	日常生活圏域内における 中心市を介して往来可能なエリア数	7エリア → 7エリア
------	---------------------------------	-------------

事業名	22 生活路線バスの維持・確保事業	関係市町
事業概要	生活路線バスの維持・確保を図るため、路線バス事業者に対する支援を行う。 地域公共交通計画に基づき、デマンドバスの実証実験等を行いながら持続的な地域公共交通のあり方を検討する。	網走市 大空町
役割分担 の考え方	両市町がそれぞれ負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
生活交通路線維持対策事業	協定書 別表 2 (1)ア	網走市	29,694	29,694	29,694	29,694	29,694
地域公共交通活性化協議会負担金		網走市	340	340	340	340	340
地域公共交通対策事業		大空町	2,320	2,320	2,320	2,320	2,320
		合計	32,354	32,354	32,354	32,354	32,354

(2) 地域内外の住民との交流・移住促進

ア. 交流・移住受入体制の促進

<p>〔形成協定の取組内容〕</p> <p>地域内への移住・長期滞在の促進を図るため、暮らしや滞在に関する情報提供や受入体制などの充実に取り組む。</p>

評価指標	お試し暮らし体験数（5ヶ年平均）	8件/年→15件/年
------	------------------	------------

事業名	23 移住促進体制強化事業	関係市町
事業概要	移住を促進するため、関係人口の創出・拡大を図るとともに、賃貸物件や空家情報の提供を行う。	網走市 大空町
役割分担の考え方	両市町がそれぞれ負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
関係人口創出事業	協定書	網走市	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
移住・定住対策事業	別表2 (2)ア	大空町	14,606	10,926	2,426	2,426	426
住替え促進事業		大空町	2,840	2,840	2,840	2,840	2,840
		合計	18,646	14,966	6,466	6,466	4,466

イ. 交流人口の拡大

<p>〔形成協定の取組内容〕</p> <p>圏域への交流人口の拡大を図るため、文化・スポーツ合宿や各種イベント情報の共有などに取り組む。</p>
--

評価指標	スポーツ合宿参加人数	1,870 人/年→2,000 人/年
------	------------	---------------------

事業名	24 文化・スポーツ合宿誘致とイベント開催の情報共有事業	関係市町
事業概要	文化・スポーツ合宿誘致の状況や各種大会、イベント開催に関する情報について、ホームページ等を利用して圏域内外へ向けて周知を行う。	網走市 大空町
役割分担の考え方	両市町がそれぞれ負担する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
スポーツ合宿誘致事業	協定書別表2 (2)イ	網走市	7,282	7,282	6,556	6,556	6,556
ホクレンディスタンス網走大会開催補助金		網走市	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
あばしりオホーツク夏まつり補助金		網走市	2,120	2,120	2,120	2,120	2,120
あばしり七福神まつり補助金		網走市	2,045	2,045	2,045	2,045	2,045
冬季イベント開催事業 ※屋台村分		網走市	180	180	180	180	180
あばしりオホーツク流氷まつり補助金		網走市	7,900	7,900	7,900	7,900	7,900
スポーツ合宿誘致事業		大空町	7,963	7,963	7,963	7,963	7,963
芝桜まつり実行委員会交付金		大空町	4,700	4,700	4,700	4,700	4,700
ふるさとまつり実行委員会交付金		大空町	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200
観光夏まつり補助金		大空町	3,590	3,590	3,590	3,590	3,590
		合計	39,780	39,780	39,054	39,054	39,054

Ⅲ 圏域マネジメント能力の強化に係る具体的取組

(1) 人材の育成

ア. 人材の育成

〔形成協定の取組内容〕 地域力の向上を図るため、各分野の人材育成や研修機会の創出などに取り組む。

評価指標	未来を考える戦略センターワーキンググループ活動回数	0回→3回/年
------	---------------------------	---------

事業名	25 産学官金連携推進事業	関係市町
事業概要	東京農業大学をはじめとする産学官金等と連携し、地域課題の解決に取り組むことを通じて、広域的・持続的な人材の育成を図る。	網走市 大空町
役割分担の考え方	網走市が地域課題戦略推進協議会の運営を支援する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
地域課題戦略推進事業	協定書 別表 3 (1)ア	網走市	7,500	12,000	6,500	6,500	6,500

事業名	26 研究・研修機会創出事業	関係市町
事業概要	地域における建築関連の人材を養成するため、建築業務に従事している者に対し、研修等の機会を確保し、技能・技術の向上を図る。	網走市 大空町
役割分担の考え方	網走市が網走地域建築技能者等地域定着促進運営協議会が行う人材養成事業に補助する。	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
建築技能者等地域定着促進事業	協定書 別表 3 (1)ア	網走市	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250

(2) 圏域内市町の職員等の交流

ア. 市町間職員研修交流

<p>〔形成協定の取組内容〕</p> <p>職員の資質及び政策課題への対応力を高めるため、合同研修会の開催等により職員の能力向上や職員間の交流に取り組む。</p>

評価指標	合同研修の実施回数	1回/年→1回/年
------	-----------	-----------

事業名	27 圏域職員合同研修事業	関係市町
事業概要	<p>職員の能力と資質の向上を図るため、両市町が実施する各種職員研修に両市町職員が参加する機会を設ける。</p> <p>また、専門職員としての資質向上を図るため、各分野の担当者研修会を合同開催する。</p>	<p>網走市</p> <p>大空町</p>
役割分担の考え方	<p>研修会を開催する市町が開催に要する経費を負担する。</p> <p>合同開催に要する経費は、両市町がそれぞれ負担する。</p>	

【事業費】

(千円)

事業名	協定	事業主体	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
一般研修費事業	協定書 別表 3 (2)ア	網走市	624	347	624	347	624
網走ブロック社会教育広域事業		網走市	0	0	0	0	0
職員研修事業		大空町	3,732	4,310	3,900	4,229	3,737
網走ブロック社会教育広域事業		大空町	0	0	0	0	0
		合計	4,356	4,657	4,524	4,576	4,361

**第3次網走市大空町
定住自立圏共生ビジョン**

令和3年(2021)年3月

網走市 企画総務部 企画調整課

〒093-8555

北海道網走市南6条東4丁目

TEL : 0152-44-6111

FAX : 0152-43-5404